

グアテマラ内政・外交（2009年10月）

平成21年11月
在グアテマラ日本国大使館

1. 概要

内政面では、2日、憲法裁判所は、国会が選出していた最高裁判所裁判官13名の内、問題があるとされた裁判官について具体的な告発事項を国会に提出し問題がある場合には交代させるべきとの判断を下し、7日、国会は選出されていた裁判官の内3名の交代について賛成多数で可決した。27日、国会は、アレホス現国会議長の再任を含む次期国会執行部(2010年1月14日発足)を選出した。

外交面では、コロンビアからウリベ大統領(13日)ならびにサントス副大統領が当国を訪問した(26日)。メキシコのカルデロン大統領が二日間に亘り当国を訪問し(26-27日)、両国電力連係システム竣工式や両国国境地域道路完成式に出席した。エスパーダ副大統領が京都で開催された第6回科学技術(STS)フォーラム出席のため日本を訪問した(3-6日)。

2. 内政

(1) 最高裁判所裁判官の選出

(イ) 2日、憲法裁判所は、国会が選出した(9月30日)最高裁判所裁判官13名の一部について、弁護士グループが汚職疑惑や裁判官としての適性に問題があるとして判断を求めているのに対し、問題があると指摘された裁判官(CICIG(グアテマラにおける不処罰問題対策国際委員会)によると13名中6名)について3日間(5日夜まで)を期限とし一般国民が具体的な告発事項を国会に提出し、問題がある裁判官については交代させるべきとする判決を下した。国会が選出した最高裁判所裁判官に対しては国内的にも強い反発が生じ、ディアリオ・セントロアメリカ紙(官報)を除く国内各紙においては、コラムニストの寄稿記事ページが数日に亘り抗議を示す白紙で占められた。

(ロ) 5日、潘基文国連事務総長は、CICIGによる最高裁裁判官選出プロセスへの懸念に関する声明を発出した。同声明で国連事務総長は、グアテマラにおける不処罰問題の闘いにおいて最高裁裁判官選出問題は極めて重要であるとして懸念を表明すると共に、国会に対し能力があり独立性が保たれ問題のない人材を選出するよう呼びかけた。

(ハ) 5日、市民グループ及びCICIGは国会に対し、最高裁裁判官として相応しくない裁判官に関し右を証明する文書計57通を提出した。

(ニ) 7日、国会は、既に選出されていた最高裁判所裁判官候補2名を別の裁判官候補と交代させると共に、別の裁判官候補1名の辞退を受け入れ同様に他の裁判官候補と交代させることを賛成多数で可決した。同日対象となった3名は、CICIGが問題がある候補として指摘していた6名に含まれていた。CICIGが裁判官としての適性に疑問を呈した残る3名については次期最高裁裁判官として選出された。

(ホ) 13日、最高裁裁判官13名が国会の宣誓式に臨み就任した。就任した最高裁裁判官は、新最高裁長官としてエリック・アルバレス裁判官を選出した。アルバレス新最高裁長官は、司法制度を救うため努力する旨

表明した。

(2) 控訴裁判所裁判官の選出

(イ) 9日午後、国会は控訴裁判所の次期裁判官90名の選出を開始し、同日深夜12時に同裁判官の選出を終了した。選出された控訴裁判所の次期裁判官には、CICIGが控訴裁判所裁判官として適切ではないと指摘していた20名は含まれなかった。

(ロ) 国会司法セクター改革委員会のモンテネグロ委員長は、控訴裁判所裁判官の選出結果について、「国会はようやく国民が望む司法制度のあり方を理解したと思われる。今回の控訴裁判所裁判官選出プロセスは透明性があり、投票方法はきちんとしていた」と述べた。また、国会における最高裁判所裁判官選出を強く批判した市民グループも、今回の控訴裁判所次期裁判官選出について満足の意を表明した。

(ハ) 13日、控訴裁判所裁判官90名及び同裁判官補60名が最高裁判所で宣誓を行い就任した(任期: 2009-2014 年)。

(3) 国会次期執行部の選出

27日、国会は次期執行部を選出した(任期は 2010-2011 年、2010 年 1 月 14 日就任予定)。次期執行部の構成は、議長がロベルト・アレホス議員(国民希望党(UNE)、再任)、第一副議長がガブリエル・エレラ議員(国民大連合(GANA))、第二副議長がイバン・アレバロ議員(グアテマラ共和戦線(FRG))、第三副議長がカルロス・フィオン議員(グアテマラ会派(BG))等となった。

(4) 先住民グループ等による各地でのデモ行進

(イ) コロンブスによる「新大陸アメリカ発見」記念日の12日、国内各地において、先住民、農民グループ数千人が、総合的な農地改革、鉱山開発の認可取り消し、先住民組織幹部に対する弾圧の停止等を主張するデモ行進等展開した。このデモ行進により、死者1名、負傷者2名、逮捕者1名等が生じた。政府は先住民、農民グループに対し日を改めて会合の機会を設ける旨約束した。

(ロ) 「革命記念日」の20日、国内各地で労組関係者、農民組織、先住民グループ、市民グループ数千人が、1944年10月革命を記念する行進を行い、政府は国内の構造的諸問題を解決すべき等主張した。

(5) 非常災害宣言の延長

7日、政府は、旱魃の影響による食糧不足問題への対応のため発出されていた非常災害宣言(本年 9 月 8 日発出)の 30 日間の延長を発表した。延長された非常災害宣言では、デング熱・デング出血熱の症例増加が報告されているペテン県、サカパ県、エスクイントウラ県への対応も新たに含まれた。

(6) 新型インフルエンザ(H1N1)問題

保健省は10月30日までの新型インフルエンザ(H1N1)の感染者数について合計1,080名、死者については合計18名となった旨発表した。

3. 治安情勢関連等

(1) 各地における大量コカイン押収

(イ) 8日、国家文民警察及び検察庁は、ペテン県サン・アンドレス市のラグーナ・デ・ティグレ国立公園付近でコカイン652kgを発見、押収した。併せて、ライフル丁、車輛2台、無線機も押収された。

(ロ) 21日、グアテマラ海軍及び米国麻薬取締局(DEA)は、太平洋岸180海里付近を航行中のコロンビア人3人メキシコ人1人が乗船した潜水艦からコカイン合計10トンを押収した。今回の押収は当国においてはこれまでで最大のコカイン押収量になったと見られる。グアテマラへ向かって航行中であった潜水艦はコロンビア製と見られている。

(ハ) 29日、当国治安部隊はウエウエテナンゴ県ネントン市サンタ・テレサ村で行われた捜査においてコカイン939kgを発見した。発見されたコカインは1kg毎に小分けに包装され、同地の空き地のグラス・ファイバーの容器内に隠されていた。

(2) 全国停電の発生

11日午後6時過ぎから約1時間半に亘り、エスクイントゥラ県内の変電所の変圧器への落雷により全国規模の停電が発生した。今年に入ってから発生した全国停電は今回で4回目となり、内3回が落雷によるものであった。

4. 外交

(1) ウリベ・コロンビア大統領及びサントス同国副大統領の当国訪問

(イ) 13日、コロンビアのウリベ大統領が当国を訪問し、コロン大統領との首脳会談、国会における演説、企業経営者団体での講演等を行い、同日夜帰国した。両国首脳会談においては、両国間 FTA 協定の批准書の交換が行われ、会談終了後には両国共同宣言への署名が行われた。

(ロ) 26日、コロンビアのサントス副大統領が同国の企業関係者等を伴い当国を訪問した。同日、エスパーダ副大統領及びサントス・コロンビア副大統領は、コロンビア企業関係者312人、中米企業関係者282人が出席した第一回コロンビア・中米ビジネス・マクロラウンド(Macrorueda Multisectorial de Negocios Colombia-Centroamérica)開会式に臨んだ。

(2) カルデロン墨大統領の当国訪問

26日及び27日、カルデロン墨大統領が当国を訪問した。26日、当国に到着したカルデロン大統領は、レタウレウ県ロス・ブリジャンテス発電所におけるグアテマラ・メキシコ電力連係システム竣工式にコロン大統領と共に出席した。カルデロン大統領はその後、グアテマラ・シティーにおいてコロン大統領との首脳会談、両国共同宣言への署名、アレホス国会議長との会談、アルバレス最高裁長官との会談、国会における演説等を行った。続く27日、カルデロン大統領はコロン大統領と共に当国内戦期の激戦地の一つであるキチェ県イシュカン地域を訪れ、メキシコ政府によるグアテマラ難民帰還への協力を称えるケツァル勲章を受勲した。その後、両国大統領は北部ペテン県ラ・リベルター市エル・セイボに赴き、同地とメキシコのタバスコ州を結ぶ道路(全長約20km)の完成式及び同地における税関設置のための定礎式に臨んだ。なお、同道路建設はメキシコ政

府の資金協力(14.5 百万ドル)により実施された。

(3) エスパーダ副大統領の日本訪問

3日から6日まで、エスパーダ副大統領は京都で開催された第6回科学技術フォーラム(STSフォーラム)出席のため日本を訪問した。日本訪問後、エスパーダ副大統領は10日まで台湾を訪問し、帰国の途についた。

(4) 国連総会におけるCICIGへの支援表明

28日、国連総会本会議において、CICIGに関する総会決議案が70ヶ国の支持を受けて採択された。米国、スウェーデン、スイスは、CICIG に対する一層の支援を要請したほかカストレサーナ CICIG 代表のこれまでの実績を評価した。他の諸国も、CICIG の活動継続のための人材面及び財政面での支援を継続する旨表明した。

(5) 中米議会新執行部の選出

28日、中米議会の新議長としてニカラグアのハシント・スアレス・エスピノサ議員(FSLN)が就任したほか、新執行部が発足した(任期:2009-2010 年)。